

第 2 回 産業技術大学院大学 デザインコンテストの受賞者が決定しました ～ 未来のデザイナーである学生から 60 作品の応募がありました ～

産業技術大学院大学は平成 20 年 4 月に設置した創造技術専攻において、ものづくりにおける商品企画の提案から製品設計、製造にいたるプロダクトサイクルを統括してマネジメントできる人材（ものづくりアーキテクト）を育成しております。

昨年度に引き続き、創造的なものづくりやアイデアを発掘することを目的として、第 2 回デザインコンテストを実施いたしました。全国より、未来のデザイナーである学生から 60 点の応募があり、この度、下記のとおり最優秀賞 1 点、佳作 4 点を決定しましたのでお知らせします。

■ 最優秀賞 [副賞 30 万円相当]

○大谷 誠之（東京デザイナー学院 1 年）

作品名：月見 (tukimi) ※ 新しい形の照明器具の提案

最優秀作品は裏面
をご覧ください

■ 佳作 [副賞 5 万円相当]

○安間 健（東京デザイナー学院 1 年）

作品名：Sign

○鷺尾 和哉（京都工芸繊維大学大学院修士 2 年）

作品名：Planthermo -和むことはエコになる-

○池田 隆佑（多摩美術大学 2 年）

作品名：POLKA DOT

○河合 匠（千葉大学大学院修士 1 年）

作品名：photo perfume

■ 表彰式

日時：平成 21 年 2 月 20 日（金）13 時から

場所：産業技術大学院大学（品川区東大井 1-10-40）308 会議室

【第 2 回 産業技術大学院大学デザインコンテストの概要】

■ テーマ 「和む」

■ 応募資格 ※ 個人・グループのいずれの応募も可

産業デザインに関心のある全国の大学院・大学・高等専門学校・専門学校の学生

月見 *tukimi*

眉月、小望月、十六夜、更待月・・・

古来日本には、月の見せる様々な表情にそれぞれ名前をつけ月を見ることを愉しむという文化がありました。

しかし現代の生活では、なかなか月をゆっくりと見るという機会がないと感じられます。

この「月見」はそんな日々の中で、月を愉しむことをもう一度思い出させてくれる、新しい形の照明器具です。

壁に掛けるかたちの照明で、その姿はその日の月の姿に合わせて日々変化します。

